

# しのぶ草



(発行 偶数月)  
発行：宮崎市教育委員会文化財課  
宮崎市きよたけ歴史館  
発行責任者 川口 眞弘  
所在地：宮崎市清武町加納甲3378-1  
TEL 0985-84-0234 FAX 0985-84-2634  
E-mail kiyorekisi-u@city.miyazaki.miyazaki.jp

## 「今に生きる安井息軒の偉業」

9月23日は安井息軒先生の第139回目の命日でした。朝のうちに本館で先人祭が開催され、その後清武町文化会館に場所を移して、顕彰会主催の「平成27年度安井息軒講演会」が開催されました。まず顕彰会の名誉会長である戸敷正宮崎市長、そして若友弘子会長のご挨拶に続き、講演。今回は、元宮崎学園短期大学教授の田中司郎先生による上記タイトルに基づく講演でした。

田中先生のお話によると、知の巨人とも言うべき安井息軒先生は、自らの研究の成果を何度も何度も推敲を重ねながら『論語集説』、『管子纂詁』等幾多の書籍に著すことで、江戸時代と明治時代をつないだとのことでした。そしてこれらの書籍は、今日に至るまで、研究者たちの重要な研究の指針になっているとのことです。

さらに今回感動したのは、息軒先生の弟子に対する指導の在り方です。父、滄洲の影響もあったのですが、清武郷の明教堂、飢肥の振徳堂、そして江戸の三計塾に共通する教育の目的は、「人格修養と、社会有用の人材育成」にあったとのことです。そのための指導法は、単なる丸暗記や教え込みとは対極にあり、個々の実態や個性に応じた「啓発の教育」であったとのことです。

またゼミのような形式で同じような力量の弟子たちでグループを作らせ、交替で講師をさせ、討論させる。どうしても必要な時だけ助言や方向付けをするというような指導法をとっていたとのことです。現代の教育の課題にも対応するような指導法をとっていたことに深い感動を覚えました。そのような指導を行ったからこそ、2000人の素晴らしい弟子たちは、自ら考え、切り拓く能力や社会有用の資質を身に着け、それぞれの立場で、最大限に能力を発揮し、新しい時代を逞しく創造していったのでしょう。(文責：川口)

### きよたけ歴史館関連イベントアラカルト



11月14日(土) 「写真でたどる清武の歴史」  
講師：宮崎市土木課副主幹 伊東 但氏  
※ 伊東氏はかつて清武町文化振興課に係長として勤務し、27年3月発行の清武町史の編纂作業にも従事し、中心的な役割を果たしました。

歴史講座のご案内  
午前10:00 ~ 11:45

12月12日(土) 「ふるさと写真と安井息軒の最新情報」 講師 元UMKカメラマン 諸岩則俊氏  
※ 諸岩氏は顕彰会の副理事長でもあり、宮崎日日新聞掲載の自分史に連載された内容を、本年8月、『ふるさと情報発信記』として、宮日文化情報センターより出版されました。

## 〈清武郷のかくれた史跡 第6回〉 「清武城周辺の石塔③」

今回は、清武城の西側および北東側の石塔をご紹介します。今回は最終回ということで、清武城の南側、船引地区の石塔をご紹介します。

まずは、宮崎市の有形文化財に指定されている、六地藏幢です。字柿ノ木田、船引神社から市道を加納小学校方面に北上すると、右手の田んぼのあぜ道にひっそり立っています。高さは166cm、幅は80×80cmで、六地藏幢としては中型の大きさです。船引神社の北側丘陵(前回紹介した長善寺霊園の南側)にあったとされ、弥勒寺のものと考えられていますが、詳細は不詳です。現在風化が進み、竿部の碑銘はほとんど読めなくなっていますが、昭和17年(1942)に宮崎県が発行した『史蹟名勝天然記念物調査報告第12輯 日向ノ金石文』に、当時解読できた碑文が掲載されています。それによると、西面(写真左側)に、「権大僧都頼眞同二親并故也ノ(梵字)ノ于□□八年辛巳八月彼岸之中日」とあり、「辛巳」という干支と八年という銘から、永正18年(1521)に比定されています。戦国時代初めに建立されたもののようです。



もうひとつは、船引神社西隣の神宮寺跡(現在は民有地)にある、六地藏幢です。高さは144cm、幅は82×85cm、こちらも宮崎市の有形文化財に指定されています。江戸時代まで日本では神仏習合が一般的で、大きな神社には寺が付随するケースが多く、船引神社(当時は船引八幡)にも神宮寺があったようです。

前出の弥勒寺のものと同様の六地藏幢は、竿部が単なる角柱でしたが、こちらは八角柱になっているのが特徴的です。またそこに刻まれている碑銘は、風化がさほど進んでおらず、よく判読できます。このうちひとつの面には、「永禄十二己巳施主敬白ノ当寺四世王寶昌珎公記口禪口ノ二月彼岸日」とあり(『清武町史 資料編2』375頁)、戦国時代後半の永禄12年(1569)、神宮寺四世住職を供養するために建立されたもののようです。

ようやく暑さもやわらぎ、これから史跡巡りに最適な季節になっていきます。雑草が枯れてきたら、石塔めぐりはいかがでしょうか。(文責：新名)